

## 大会宣言（案）

安倍政権は改憲に執念を持ち、現憲法が施行されて72年の今、わたしたちは戦後最大の憲法をめぐる危機に直面しています。「平成の、その先の時代に向かって」と憲法審査会の議論の加速を求めるなど、改元による天皇代替わりを一大キャンペーンであるかのように政治的利用して、首相に求められる憲法尊重・擁護義務をも一顧だにしません。「9条の2」を新設し自衛隊を書き込む自民党改憲素案では、9条の持つ戦力不保持や交戦権否認の規定が空文化・死文化してしまいます。「教え子を戦場に送らない」と決意した私たちは、憲法改悪を絶対に許しません。職場で憲法を語り、政治を語り、安倍9条改憲を許さない「憲法3000万署名」をさらに推進します。

小・中学校で「特別な教科 道徳」が始まり、小学校で英語科が始まります。国による特定の価値観の押し付けや発達段階を無視し、条件整備の整わない中での英語教育への批判は当然です。私たちは「教育課程の編成権は学校にある」という大原則を堅持して、すべての教職員の参加で、目の前の子どもたちの実態から教育課程を編成して、機械的な授業時数確保や学力テスト結果などを理由とした上意下達の教育課程編成に反対します。

来年度使用の小学校教科書採択には、教科書を使って指導する教員（学校）の希望を尊重することを求めます。そのためには、教員による教科書研究の時間保障は欠かせません。小学校教科書採択のとりくみを通じて、憲法が規定する教育を受ける権利を国民に取り戻す大運動を、教職員と労働者・住民による国民共同の連帯ですすめます。

消費税10%増税の口実に教育の無償化を掲げています。教育の無償化は消費税増税に頼るべきではありません。子どもも含めてすべての国民が負わねばならない消費税は、低所得者ほど負担割合が高まる逆進性のあるものです。私たちは惑わされません。子どもたちの教育のための財源を、軍事費や大型公共事業の見直しと、大企業や富裕層への応分の負担によって賄うことで、教育の無償化は実現可能です。生活を破壊する消費税10%増税に反対します。

私たちの運動が教職員の長時間過密労働を可視化させ、時間外労働はないなどと強弁していた教育行政も対応に手をつけ始めました。しかし、人を増やさない・業務を減らさないという不十分な対応のために、学校現場には負担軽減の実感はありません。子どもたちの健やかな成長と教職員の生活を守るために、定数改善は待ったなしです。また、教育を魅力ある仕事として次世代に引き継いでいくためにも、実効ある負担軽減策が必要で、全教が呼びかけた「せんせいふやそうキャンペーン」を大いに活用して、幅広く賛同の輪を広げてください。

厳しい情勢の続く中で、私たちの運動が教育条件や労働条件を切り拓いてきました。組織が大きくなれば要求実現により近づきます。憲法・暮らし・働き方・少人数学級などは、多くの教職員の願いと重なります。埼教組とともに願いを叶えよう、子どもたちにゆきとどいた教育を行おうと働きかけることを全組合員の力を合わせて成功させます。厳しい時代の今だからこそ、強く大きな埼教組をみんなで作っていきます。以上、宣言します。

二〇一九年六月九日

埼教組第八八回定期大会